



南中だより 速報

平成29年10月20日
東久留米市立 南中学校
校長 川上 智

日体大学長講演会 毎日新聞に掲載

10月17日に行われた、具志堅幸司日体大学長の講演会の様子が、10月19日毎日新聞朝刊に掲載されました。内容は以下のとおりです。

「ピンチはチャンスだ」 東久留米の中学校で講演

ロサンゼルス五輪体操男子個人総合金メダリストで日本体育大学長の具志堅幸司さんが17日、東久留米市立南中学校で講演会を開いた。

題は「立ちはいかに壁を越える!」。具志堅さんは、けがが多かった学生時代の体験を語り「ピンチはチャンスだ。一生懸命に逆境を乗り越えてプラスになった時に金メダルをもらった。逆境を受け入れ、その上で最善の道は何なのか。苦しい時にはこの言葉を思い出してほしい」と生徒たちに呼び掛けた。

具志堅さんは「中2の時、行きたい高校に行こうと、塾代のため牛乳配達をした」と振り返った。大阪の私立清風高校時代は体操部に入り、インターハイで優勝するため「インターハイ」と「優勝」を部員の合言葉にし、3年生で団体優勝した。「体操を通して学んだことは、いい言葉をたくさん使うこと。マイナスな言葉は言わない」と話した。

また、日体大で4年間指導した、世界体操選手権個人総合6連覇の内村航平選手について「大学2年生までは、試合で良い時と悪い時のムラがあったが、2008年の北京五輪個人総合で銀メダルを取ってからは一度も叱ったことはない。準備が大事ということに気が付いた。自分で考え、自分で行動できるような選手になったからだ」と語った。

生徒からは「どうしたら自分を追い込むことができますか」「実力が上がらず気持ちが沈む時に、どうやって気持ちを切り替えましたか」などと多くの質問が出た。

子供たちが記した講演会の感想では、具志堅学長の前向きな心の持ちように関するものが多く見られました。とても分かりやすいお話で大人も子供も共感できる内容でした。

代表生徒による質問の回答を、学長がメモしたものを頂戴しましたので、右のページに掲載しました。

当日は、並木市長、直原教育長もお見えになりました。

(右から、具志堅学長、校長、市長、教育長)

